

ベッセルホテルカンパーナすすきの

札幌市中央区

設計・監理／エーエー アンド サン
施工／岩田地崎建設



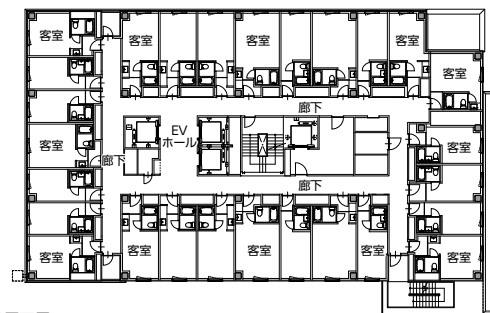
設計主旨

すすきの駅から徒歩5分の駅近で利便性の高い立地にある宿泊特化型のホテルである。建物高層部の外装材は押出成形セメント板を使用し、リップ付きパネルとフラットパネルを混在させることにより無機質で均一な外壁にならないよう配慮した。パネルの塗装色については「札幌市の色彩景観基準で定められた景観色」の中から明度が異なるライトグレーの3色を選定し、パネルのリップの有無による陰影を考慮した上で色を調整した。2層にわたる低層基壇部にはダークグレーの御影石を使用し、和のテイストを感じさせる落ち着いた印象にしている。和紙調・木目調のアルミパネルと六角形の銀黒メタリックのせつ器質タイルで構成された門型のエントランスゲートがホテルの顔として訪れたゲストを迎える。また客室窓は断熱性、遮音性、清掃性に優れた樹脂サッシ（ドレーキップ窓）を採用した。内観は“和”の要素をシンプルに表現し、日本のホテルならではの「美と繊細さ」を追求している。全体的に落ち着いた木を使い、ホテルにふさわしい上質感とくつろぎを与えている。ロビーにはモダンにアレンジされた囲炉裏の他、北海道の自然や素材をモチーフにしたアートワークが展示されている。2階から13階の客室フロアには、15.7㎡から52.6㎡までの10タイプ296室の客室を設けている。客室は靴を脱いで過ごすことができるスタイルになっているため、自宅のようなくつろぎ感があり、ホテルにしながら和の趣を感じることができる。2階のサウナ付き大浴場には青森ヒバの浴槽を置き、マテリアルには木を使って温泉宿のような温もりを感じさせるとともに、天井や湯船には水のゆらぎが現れるようなライティングを施し、幻想的な空間の中でくつろげるようにしている。

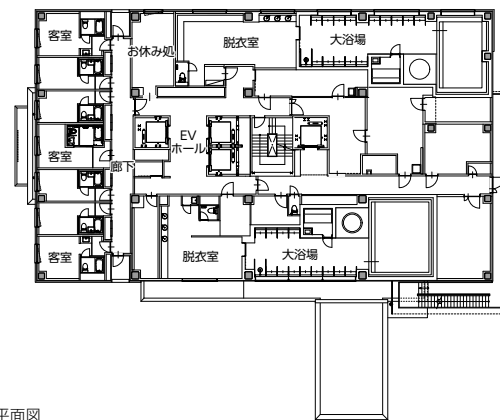
(小田部 篤／エーエー アンド サン)



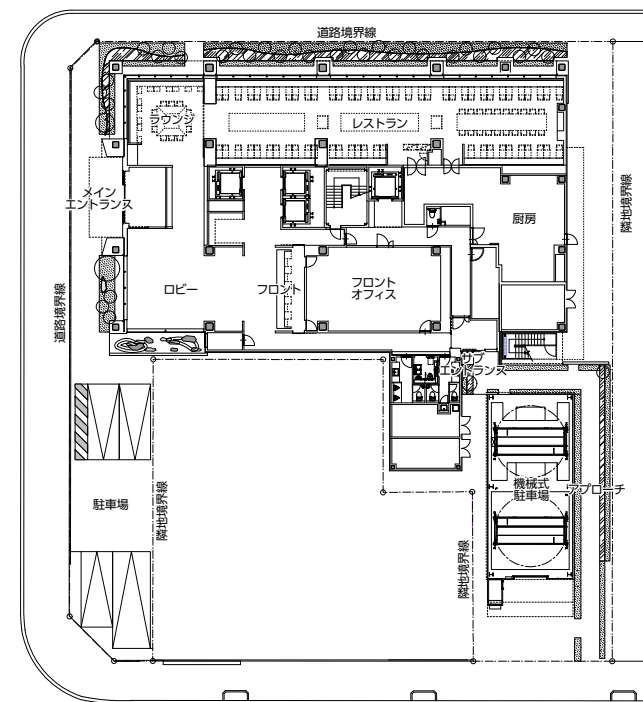
小田部 篤……こたべ あつし
1975年愛知県生まれ。2000年日本大学大学院理工学研究科建築学専攻修了。2005年エーエーアンドサン入社。現在、同社設計一部担当部長



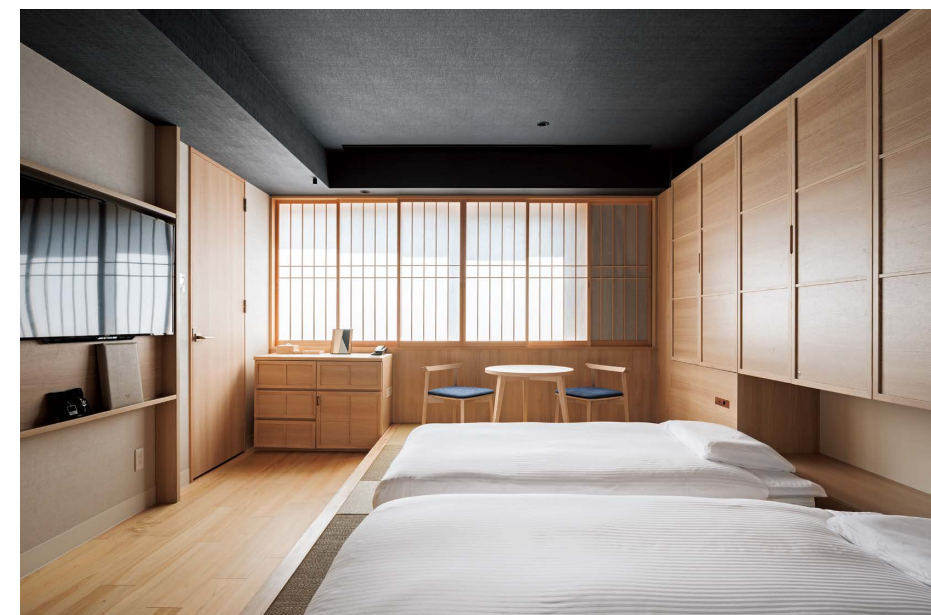
基準階平面図



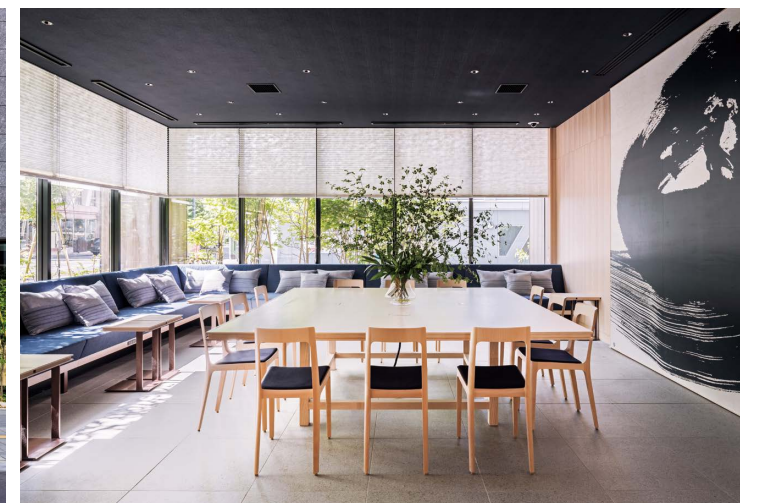
2階平面図

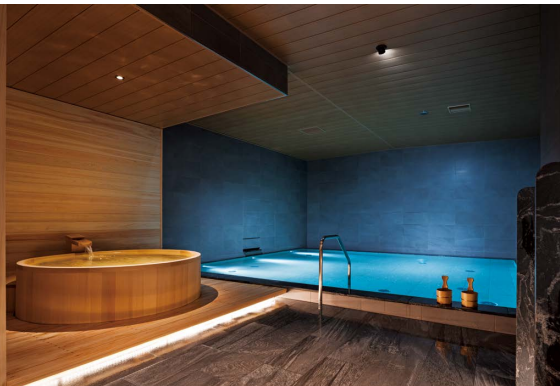
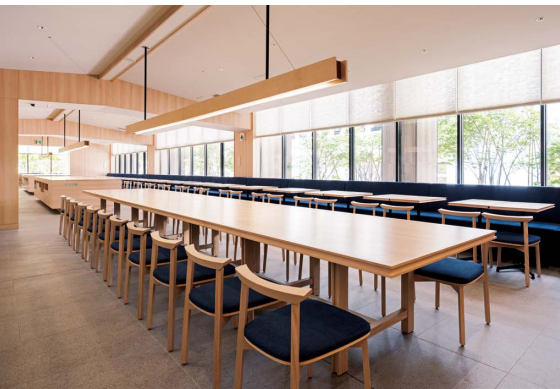


配置・1階平面図 縮尺1/600



上段上／客室 プレミアデラックス
上段下／客室 デラックスルーム
下段左／エントランス*
下段右／1階ラウンジ





上／写真手前：囲炉裏のあるロビー 写真奥：エントランスホール*
中／1階朝食レストラン 下／2階大浴場

施工計画

当ホテルの建設地は札幌すすきの繁華街の飲食店が建ち並ぶ一角にある。

搬入計画としては、南側の接道している立体駐車場の入口を使用し、ホテル棟の基礎工事を先行、クレーン設置場・搬入路確保のために立駐の基礎、埋戻しを行い、鉄骨建方・外装等の資材搬入を行った。

冬季間は、積雪および厳寒による除雪・採暖を行わないと工事を進めることができないので、仮設養生上屋としてADMパネルを採用し、作業構台・H鋼山留杭を利用して高さGL+2,000程度で設置した。積雪時にはパネル上で除雪・排雪を行い、採暖養生に関しては、コンクリートの養生温度を10℃前後で維持するために上屋内でさらにシートで囲い、温風採暖機にて加温し温度管理を行った。

鉄骨建方計画は、南側からの材料取込しかできないために作業構台を利用しての建て逃げ方式を採用した。また、建方期間中の外力に対する自立検討を行い建方・溶接の日程調整を行った。



仮設養生上屋内

屋上部分にボイラー・給湯設備機器、室外機、キュービクル等が多数配置されていたが、冬季間の機器上部からの落雪、氷柱による防水層の損傷を防ぐために屋上全面に保護防水層を増貼りにて対応した。

外構ロードヒーティング範囲を着工時より発注者・ホテル運営会社・設計者と早期から協議を行い、地元施工業者としての経験を生かし、施工範囲を提案し採用して頂いた。

施工期間中に北海道胆振東部地震が発生し、大規模停電等により一時現場の中断・資機材の遅延等があったが、関係業者の協力もあり工期内に終らせることができた。また、発注者含め関係者全員が一丸となって取り組み、品質の高い建物を提供することができた。

(蝦名健治／岩田地崎建設)



蝦名 健治……えびな けんじ
1971年北海道生まれ。1994年北海道大学工学部建築学科卒業、同年岩田建設入社。現在、岩田地崎建設 建築部工事課 工事長



コンクリート打設状況(採暖養生ファーンセダクト設置)

ベッセルホテルカンパナすすきの データ

所在地 札幌市中央区南5条西6丁目16-1

主要用途 ホテル

建築主 JA三井リース建物株式会社、株式会社サンケイビル

設計・監理 エーエー アンド サン

担当／総括：近藤秀次 建築：小田部篤、柴田高德、佐藤綾香 構造：齋藤 誠、伊東和廣

設備：堀部清一、服部光男、筒井大輔

インテリアデザイン UDS 担当／中原典人、工藤篤司

外観デザイン監修 三井デザインテック 担当／湯原章裕

施工 岩田地崎建設

担当／工事長：川上義弘 所長：蝦名健治 建築：泉亨正毅、河合康晴、山本 進、高橋龍毅、伊藤良樹、本田陽平、大内一平、LAM HUNG THINH

電気：佐々木稔 設備：山谷 剛

設計期間 2017年1月～2017年8月

工事期間 2017年9月～2019年3月

開業 2019年6月1日

【建築概要】

敷地面積 1,579.31㎡

建築面積 1,027.54㎡

延床面積 11,067.79㎡

建ぺい率 65.06％（許容100％）

容積率 599.99％（許容600％）

構造規模 S造 地上13階

最高高さ 50.14m

軒高 43.80m

階高 1階4.50m、2階4.20m、3～13階3.20m

天井高さ 2.5m、2.2m

主なスパン 9.0m×6.8m

道路幅員 西側25.0m、北側10.9m、南側20.0m

駐車台数 84台

地域地区 商業地域

客室数 296室

スタンダードシングル (15.7㎡) ×51室、スタンダードダブル (18.1㎡) ×22室、モデレートダブル (17.0㎡) ×44室、スタンダードツイン (20.0㎡) ×88室、モデレートツイン (21.3㎡) ×40室、スーペリアルーム 和室 (24.5㎡) ×44室、デラックスルーム 和室 (36.9㎡) ×4室、プレミアデラックス (52.6㎡) ×2室、アクセシブルシングル (21.3㎡) ×1室

【設備概要】

電気設備 受電方式／屋上キュービクル高圧1回線6.6kV受 電 変 圧 器 容 量 ／1φ300kVA×3、3φ500kVA×4 予備電源／非常用ディーゼル発電機200kVA

空調設備 空調方式／空冷ヒートポンプ式パッケージエアコン＋外気処理パッケージエアコン 熱源／電気式

衛生設備 給水／受水槽＋加圧給水方式 給湯／ガスマルチ給湯機、電気式個別温水器 排水／建物内汚水・雑排水合流方式

防災設備 消火／屋内消火栓設備、連結送水管設備、スプリンクラー設備、消火器、ハロン消火設備 排煙／自然排煙

昇降機 乗用 (15人乗) ×3基、サービス用×1基

【主な外部仕上げ】

屋根 改質アスファルト露出防水

外壁 押出成形セメント板、御影石、アルミ化粧板

建具 樹脂サッシ、アルミサッシ、ステンレスサッシ

外構 磁器質タイル

【主な内部仕上げ】

エントランスロビー 床／磁器質タイル 壁／化粧パネル、ビニルクロス 天井／ビニルクロス

客室 床／タフテッドカーペット、ビニル織物床シート

壁／ビニルクロス、磁器質タイル 天井／ビニルクロス

写真提供／ベッセルホテル開発

P140、※撮影／クリエイティブアイズ 川村剛弘

協力会社

電 気 設 備 工 事	振 興 電 気
機 械 設 備 工 事	朝 日 工 業 社
鉄 骨 ・ ハ イ ベ ー ス 工 事	栗 林 商 会
非 破 壊 検 査	さ くら 非 破 壊 検 査
ク レ ー ン 工 事	高 橋 重 機 興 業
鉄 筋 工 事	寺 町 鉄 筋 工 業
鉄 筋 ガ ス 圧 接 工 事	鉄 建 工 圧
防 水 工 事	日 本 防 水 総 業
押 出 成 形 セ メ ン ト 板	ノ ザ ワ
ロ ッ ク ウ ール 吹 付 工 事	北 裕 建 装
塗 装 工 事	内 海 塗 装
石 工 事	フ ァ イ ン テ ク ノ
カーテン・カーペット・クッション	パシフィックハウステクスタイル
フリーユニットバス工事	小 笠 原
機 械 式 駐 車 設 備 工 事	新 明 和 工 業